

家畜衛生 いずも

H29年度 No.1

2017. 6月



島根県東部農林振興センター出雲家畜衛生部(出雲家畜保健衛生所)

〒699-0822 出雲市神西沖町 918-4 TEL(0853)43-7900 FAX(0853)43-2801

■ 家畜衛生部長 あいさつ ～新年度にあたって～

4月から4年ぶりに出雲家畜衛生部(出雲家畜保健衛生所)に異動してきました安部と申します。どうぞよろしくお願い致します。また、日頃より管内の畜産振興と家畜衛生の推進につきまして、多大なるご協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて、平成 28-29 シーズンの国内における「高病原性鳥インフルエンザ」は9道県12農場で発生し、その他 218 例の死亡野鳥等からウイルスが検出されました(H29.4.7 時点)。また、韓国では本病により3千7百万羽余りの家きんが殺処分され、さらに今年2月以降、「口蹄疫」も発生しております。



家畜衛生部長 安部 哲朗

このような状況の中、家畜防疫におきましては家畜伝染病の発生防止と万一の発生に備えた危機管理体制の更なる強化を図って参ります。

家畜飼養者の皆様にも「家畜飼養衛生管理基準」の遵守などをお願いしておりますが、家畜伝染病発生防止のためとご理解いただき、引き続き取り組みをお願いします。

家畜衛生対策では酪農巡回や肉用牛巡回指導による受胎率や生産性の向上対策、子牛事故低減対策、肥育牛の肉質向上対策、放牧衛生対策等を現場と連携を図りながら進めてまいります。また、本年9月に開催されます第 11 回全国和牛能力共進会(宮城全共)に向けた取り組みも本格化しておりますが、当所でも出品候補牛への衛生検査等を実施していきます。

今年度も出雲家畜衛生部職員一同「地域の家畜衛生の向上による畜産振興」に向けて取り組んで参りますので、よろしくお願い致します。



■ 全共応援キャラクター しま牛くんをよろしくね!

宮城全共を盛り上げ、さらに本番会場で“しまね和牛”を PR するため、「しまね和牛」のキャラクターを県内の農林高校等の学生さんから募集し、新キャラクターが誕生しました。その名も「しま牛くん」! 9月に向けて、目にする機会もどんどん増えてきますので、みなさま可愛がってあげてください。

■ 平成29年度 出雲家畜衛生部職員紹介



家畜衛生課

課長	大元 隆夫
主任獣医師	藤原 浩美
主任獣医師	高野 涼子
主任(庶務)	矢野 義明
嘱託職員	森脇 秀俊



防疫業務課

課長	土江 将文
企画員	原田 幸治
獣医師	富田 節雄
獣医師	森山 くみ子
嘱託職員	石飛 幾久世

各課の主な担当業務は…

家畜衛生課

肉用牛・乳用牛の衛生指導、放牧衛生、家畜人工授精師、受精卵移植、獣医事、動物薬事、美味しまね認証・農場 HACCP など

防疫業務課

家畜の伝染病の検査、国内外の家畜伝染病の発生状況、防疫体制の整備、飼養衛生管理基準、養鶏・養豚・養蜂の衛生対策 など

です。ご不明な点などございましたら、お気軽にお問い合わせください。

■ 5条検査でおじゃまします

本年度も家畜伝染病予防法第 5 条に基づき、奥出雲町(旧横田町)の搾乳牛を対象に結核・ブルセラ病・ヨーネ病の検査を行います。又、今年度より 5 条検査の対象は和牛のヨーネ病も該当します。

ヨーネ病は慢性下痢を示し、伝染力が強く根治不能の難病です。全国では毎年 600 頭以上が摘発そして淘汰されています。

乳牛での発生が主でしたが、近年では和牛にも感染がみられ、今後まん延が危惧されています。スムーズな採材作業を心掛けますので、生産者の皆様や関係機関の方々におかれましては何卒、御協力の程お願い申し上げます。



ヨーネ病の牛

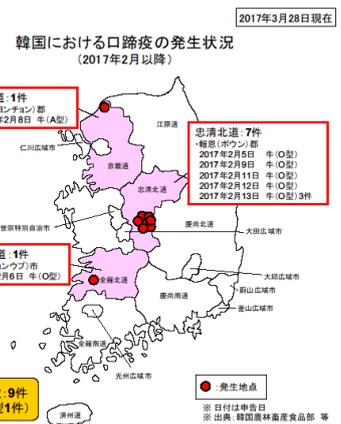
(出典:家畜疾病カラーアトラス)

韓国で口蹄疫が発生しています

今年の2月から、韓国において牛の口蹄疫が続発しています。東アジアにおいても中国及びモンゴルで同様に発生しています。

近年、国内外を問わず人と物の移動が盛んになり、国内への口蹄疫ウイルスの侵入リスクが非常に高まっています。

口蹄疫ウイルスの国内侵入防止対策として、空港や港等で水際防疫を実施していますが、農家の皆様には、引き続き、飼養衛生管理基準の遵守の徹底をお願いします。



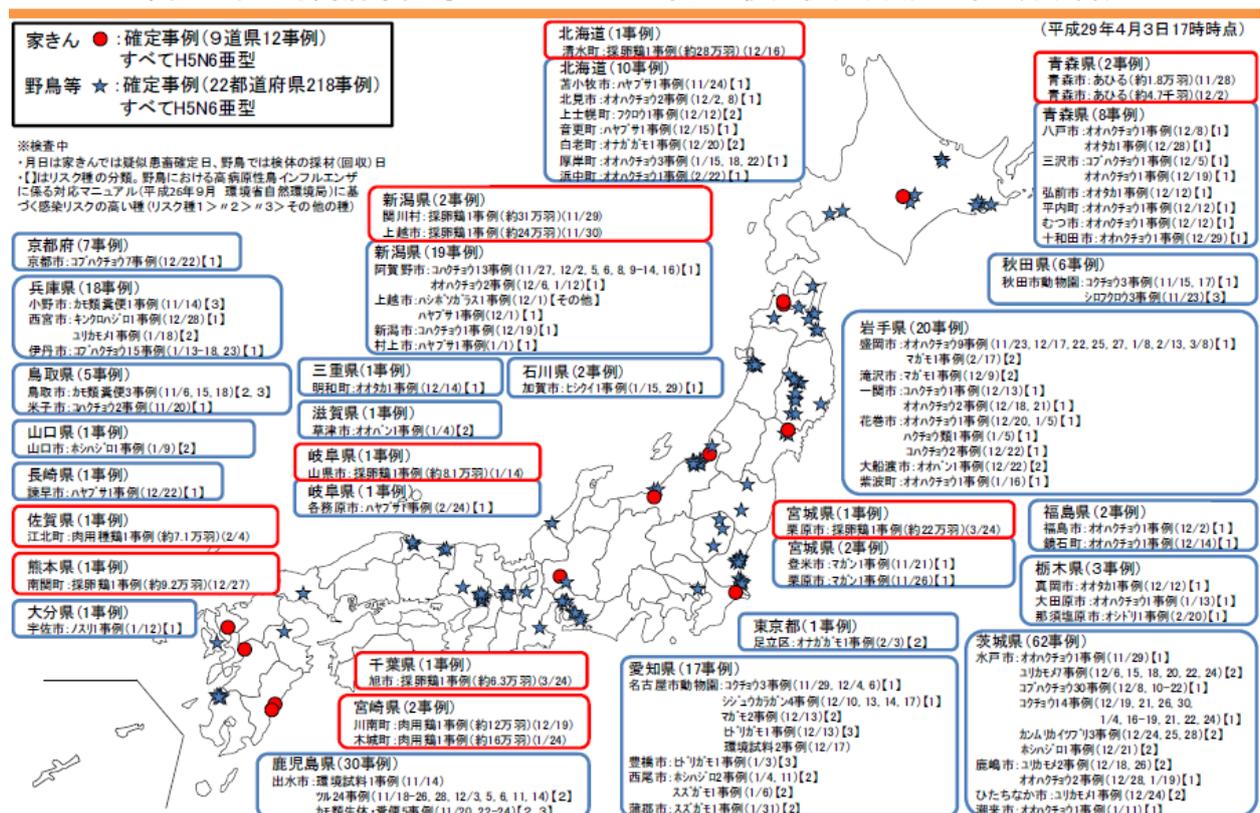
世界的に「鳥インフルエンザ」が発生。「飼養衛生管理基準」の遵守を!

平成28年度に48カ国で「高病原性鳥インフルエンザ」の発生が認められています。国内においても9道県12件の発生があり、約167万羽の鶏およびアヒルが殺処分されました。また環境省の発表によると22県、230地点で死亡野鳥から高病原性インフルエンザが確認されています。

国内12ヶ所の発生事例での疫学調査の報告によれば、壁の小さな破損箇所、糞の取り出し口などからのネズミなど野生動物がウイルスを持ち込んだこと意外は考えられないことが各事例共通の指摘事項として挙げられています。

野鳥の調査で明らかのように「高病原性鳥インフルエンザウイルス」が全国的に蔓延しています。このウイルスの侵入を防ぐためには、施設の破損箇所や不備な箇所がないかなど「飼養衛生管理基準」に基づいた管理体制の再確認が必要です。

国内における高病原性鳥インフルエンザの発生・検出状況 (平成28年11月以降)



■ 放牧検査を実施しています

公共放牧場や共同牧場(林間、転作田・耕作放棄地を含む)で放牧する牛について、放牧前後に血液検査や健康チェックを実施し、放牧場における伝染病の伝播防止や放牧事故の低減を図っています。

放牧中は、毎日の観察と、ピロプラズマ原虫を媒介するダニの寄生予防などの衛生対策を行いましょう。

検査を希望される場合は、放牧場の窓口(役場や JA 等)にご連絡ください。



■ 第11回全国和牛能力共進会への取り組み

本年9月7日～11日の5日間、宮城県仙台市で開催される第11回全国和牛能力共進会はテーマに「高めよう生産力、伝えよう和牛力、明日へつなぐ和牛生産」を掲げ、繁殖雌牛については生産効率の向上を目指した繁殖能力の改良への取り組みと、肉牛については、今後の食糧生産・流通・消費を見据え、消費者の方々が求める「美味しい和牛肉」として脂肪の質の客観的評価が行われることになっております。当所管内においても、出雲地区、雲南地区及び奥出雲地区の出品対策協議会で全共への取り組みが行われているところです。

先般開催されました全共本部・地区合同会議で出品牛の衛生条件として種牛の部、肉牛の部の衛生対策について了承されたところですが、いずれの出品牛についても県を出発する72時間以内に家畜衛生部の家畜防疫員による臨床検査を受け健康であることの確認が必要ということとなっております。また、衛生検査並びに予防注射についても、牛結核病、牛ブルセラ病そしてヨーネ病の検査を実施し、陰性を確認したもの、また、炭疽、牛呼吸器病、牛流行熱および牛異常産のそれぞれの予防注射を受けていることが必要ということとなりました。接種時期については平成29年3月5日～8月14日までの期間に接種が必要となります。牛呼吸器病は、牛5種混合生ワクチンあるいは牛6種混合ワクチンの接種が必要で、妊娠牛は6種混合ワクチンを接種することとなっています。その他、出品牛に随伴する子牛(生年月日が平成29年6月5日以前の牛)も検査・予防注射が必要となっております。

今後、9月の大会に向けて候補牛の選抜や出品対策が本格化する中で、家畜衛生部としても引き続き衛生対策を中心とした技術指導を行っていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。



全共宮城大会
マスコットキャラクター
牛正宗(うしまさむね)



今年度もよろしくお願いいたします!

